



# 芦安中学校だより

第 4 号

校長 石原敬彦

2017. 9. 22

## 全校のすべての力を結集し、学園祭を成功裏に終えました!

9月9日、抜けるような青空の下、第33回白峰祭が行われました。午前には体育の部、午後には文化の部。全校生徒数17名の芦安中では、一人の生徒がいくつもの役割をこなしながら、同時に協力し合うことができなければ盛りだくさんな内容の一つひとつを完遂することはできません。縦割り班対抗で行った体育種目、学年劇、全校劇、全校和太鼓、さらに展示発表・・・練習・準備期間から当日まで生徒たちは持てる力のすべてを出し切って取り組み、感動的な閉祭式で幕を閉じました。取り組みの過程で困難もありましたが、生徒会本部を中心に一つひとつを乗り越え、テーマ「輝き～創造と協調を通して～」のとおり、全員が輝く学園祭にすることができました。準備段階から当日まで支えてくださいました保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げます。



全校リレー・ゴール直前のデッドヒート! (撮影・芦安窓口サービスセンター長 三井孝司様)

## □芦安中学校を支えてくださっているのは・・・

学園祭当日の一場面です。全校劇上演の直前、全校生徒が円陣を組んで生徒会長の森本君を中心に「みんなで大成功させるぞ!」と声を上げていました。全校生徒の心が一つになっている一場面でした。芦安中には学年の枠を超えて生徒が協働する場がたくさんありますが、実は、すぐ隣の小学校の児童とも一緒に行う活動や一緒に時間を過ごす機会がたくさんあります。白峰祭の10日後には芦安小学校と地域との合同運動会がありましたが、本校の生徒が自発的に参加し、いろいろな競技に真剣に取り組むだけでなく児童や園児の面倒を見ている場面もたくさん見ることができました。芦安地区には地域と学校とが一体となって行う行事や機会が豊富にあり、確かな「心通うコミュニティ」が形成されていると感じています。その中で年上が年下のロールモデル(お手本)となり、年下は「自分もいつかはああゆうかっこいい(素敵な)年上になるんだ」と自然に思うようになる・・・そういう理想的な環境が醸成されているのだと思います。芦安中生徒の学年劇・全校劇・全校和太鼓は完成度が高く、とても一朝一夕に今のレベルに到達できる内容ではありません。生徒の真摯な努力に加え、彼らが保育園や小学生の頃から中学生の発表に触れていることが、目には見えないけれど確かな財産になっています。それはほかのさまざまなことについても言えます。8月26日にはPTA主催で芦安小中学校の愛校作業がありましたが、大勢の地域のお年寄りの皆様がボランティアで参加して下さったことには本当に敬服いたしました。芦安小中学生はまさに地域の皆様と伝統に支えていただきながら日々成長しているのです。